# 特定非営利活動法人地域の未来・志援センター
# 平成１８年度　事業報告書

## １．事業実施の方針

特定非営利活動法人地域の未来・志援センターは、持続可能な社会に向けた地域づくりを行うＮＰＯ、企業、行政、地域に対して、戦略的、総合的な地域デザインのサポートに関する事業を行い、環境活動の社会化、市民社会の実現を目指し、市民ひとりひとりが価値観（意志）を持った持続可能で豊かな暮らしの実現に寄与することを目的として、下記の事業を計画実施した。

具体的には、本法人の定款第５条第１項の事業として、本年度は以下について実施した。

市民が持続可能で豊かな暮らしを実現するための地域デザインに関する事業（以降、「地域デザイン事業」と表記）

持続可能な社会に向けた地域づくりを行うＮＰＯ、企業、行政、地域が不足している財源・資源の開発・提供に関する事業（以降、「財源・資源の開発事業」と表記）

持続可能な社会づくりを行うＮＰＯ、企業、行政、地域が抱えている様々な課題に対して、お互いに支援し合えるネットワークづくりを支援・促進する事業（以降、「ネットワーク支援事業」と表記）

持続可能な社会づくりを行うNPO、企業、行政、地域の情報を収集し提供サービスを行う事業（以降、「情報提供事業」と表記）

## ２．事業の実施に関する事項

### (ア)　特定非営利活動に係る事業

下記事業は、地球環境基金の委託事業「環境保全に関する協働活動推進モデル事業・愛三岐地区」及びセブン-イレブンみどりの基金と締結した「東海（愛知・三重・岐阜）地域における市民環境活動支援のための協定書」に基づく活動の一環として実施した。

事業体系

- １．地域デザイン事業
  - １-０　サロン事業
  - １-１　環境経営モデル化支援事業
  - １-２　人材育成事業（地域デザインスクール）
- ２．財源・資源の開発
  - ２-１　ファンドレイジング事業（助成セミナー）
  - ２-２　人材育成事業（ＣＳＯラーニング制度）
- ３．ネットワーク支援事業
  - ３-１　グリーン購入推進事業
  - ３-２　ネットワーク支援事業
  - ３-３　IIHOE/CANPAN 協力事業
- ４．情報提供事業
  - ４-１　ＷＥＢ事業（ＨＰ、ＤＢ、ＧＩＳ）

## １．地域デザイン事業

持続可能な社会づくりを行う NPO、企業、行政、地域が協働して総合的な地域の理想像を描き、実現可能な目標を設定し実現していくことを戦略的に支援する事業

### １－０．サロン事業

○目的

愛知、岐阜、三重の市民・ＮＰＯ、企業、行政のパートナーシップ基盤づくりのために、環境活動等の実践者が集うサロン（テーマ毎の情報交換を行う場）を開催。地域環境力を向上していくための戦略研究や、持続可能な地域社会の青写真づくり、各主体が協働して取り組むことのできる環境保全活動のテーマ設定を見出すことを目的とする。

○実施内容

今年度は、企業 CSR に関わっている、もしくは関心・志のある企業人、NPO、行政を対象として「環境経営モデル化支援サロン」を開催し、従来「環境経営モデル化支援事業」において協力しているリコー中部㈱の環境市民活動助成制「エコひいき」を題材として企業 CSR 活動について意見を交わした。(写真 1)

開催日：2006 年 8 月 8 日（火）　参加者：18 名　（企業：９名、行政：1 名、NPO：7 名）

（写真 1：環境経営モデル化支援サロン）

### １－１．環境経営モデル支援事業

○目的

環境と経営を同軸に捉えて販売事業を行っている企業をモデル化し、他企業へも普及する戦略研究を行う場をつくる。

○実施報告

リコー中部㈱の環境活動 NPO への助成事業「エコひいき」に関して、運営事務局の一端として携わり、助成先団体選考会の運営（写真 2.3）・助成先認定式（写真 4.5）・助成先団体への活動のヒアリングに活動現場へ足を運んだ(写真 6.7)。

#### ＜1．エコひいき 2006 助成先団体選考会＞

開催日：2006 年 7 月 6 日　開催場所：リコーエレメックス㈱　会議室

内容：第 1 部　「エコひいき」助成先団体選考会

総応募数 56 団体の中から 1 次選考行い、通過した 22 団体から更に助成先 10 団体を選考する。選考委員 6 名による選考が販売会社社員や関係する NPO に公開の形で行われた。

第２部　「エコひいき」ステークホルダー会議

「エコひいき」という助成制度について関係しているＮＰＯや社員、過去に助成を受けた団体がディスカッションを行った。

（写真 2：第１部 助成先団体選考会）

（写真 3：第２部ステークホルダー会議）

＜2．エコひいき　助成先団体認定式参加＞

助成先として選ばれた中部地区 10 団体のうち東海地区となる 6 団体の中から 3 団体の認定式について同行し関係作りを行った。

| 日付 | エリア | 助成先団体名 | 同行事務局員 |
|---|---|---|---|
| 7 月 31 日(月) | 愛知 | 大府緑化推進研究会 | 馬場 |
| 8 月 4 日（金） | 三重 | ボランティアセンター ラブリーフォレスト | 北村 |
| 8 月 4 日（金） | 静岡 | 特非）ガラ紡愛好会 | 北村 |

（写真 4：【愛知】認定式　大府緑化推進研究会）

（写真 5：【静岡】認定式　ガラ紡愛好会認定式）

＜3．エコひいき 活動参加ヒアリング＞

助成先団体の活動に参加し、団体代表及び活動参加のリコー社員に助成制度に関する意見や、活動についてのヒアリングを行った。

| 日付 | エリア | 助成先団体名 | ヒアリング事務局員 |
|---|---|---|---|
| 10 月 7 日（土） | 愛知 | 環境ボランティアサークル亀の子隊 | 馬場 |
| 10 月 8 日(日) | 静岡 | 特非）ガラ紡愛好会 | 馬場 |
| 10 月 22 日（日） | 静岡 | NatureClean | 北村 |
| 10 月 22 日（日） | 三重 | ボランティアセンター ラブリーフォレスト | 馬場 |
| 10 月 29 日（日） | 岐阜 | 特非）自然、生活共生会 | 北村 |

（写真 6：【愛知】活動参加ヒアリング
環境ボランティアサークル亀の子隊）

（写真 7：【三重】活動参加ヒアリングボランティアセンター ラブリーフォレスト）

**＜4．エコひいき リコー販社社員と助成先団体の交流会＞**

**11 月５日に『もっと地域に価値を創造する助成へ！』というテーマで助成に関するセミナーを行った（資料１ セミナーちらし参照）。午前には地域の未来・志援センターとリコー中部㈱、環境省中部環境パートナーシップオフィス３者の共催にて、リコー中部㈱の助成事業「エコひいき」における東海３県と静岡県の助成先市民団体と東海３県と静岡県のリコー販売会社社員との交流会を行った。地域の未来・志援センターのヒアリング先を含め多くの助成先市民団体の参加があり、リコー中部㈱の助成制度について、また地域に密着した助成制度ということについて、IIHOE（人と組織と地球のための国際研究所）代表 川北秀人氏のファシリテートで活発な意見が交わされた。（写真 8）**

（資料１ 11/5 「もっと地域に価値を創造する助成へ！」 左＝表、右＝裏）

（写真 8：11/5 午前 エコひいき交流会）

## １－２．人材育成事業（地域デザインスクール）

○目的

どうすれば持続可能な社会を目指す取り組みができるか、また持続可能な社会とは何か。様々な視点で地域デザインに取り組む実践者を迎え、持続不可能な現状を認識して、持続可能な地域社会の地域デザインという概念を具現化する講座を行った。

○実施内容

昨年秋期に引き続き、名古屋市企画のなごや環境大学の講座の一つとして、「地域デザインスクール」を春期と秋期でそれぞれ開催し、地域の未来・志援センターが目指す持続可能な社会の地域デザインということについて講師・参加者と共に学び考える講座を行った。

総参加者数：のべ 70 名

＜2006 年春期　地域デザインスクール＞　4 日間 8 講座＝土曜日：13：30～16:30PM

| 開催日 | | 講師（ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ） | 講座タイトル |
|---|---|---|---|
| 1 | 6/24(土) | 名古屋大学大学院教授<br>高野雅夫 | 持続可能な地域づくりとは |
| 2 | 6/24（土） | パネル討論(萩原) | 「持続可能な地域デザイン」とは何か？ |
| 3 | 7/8（土） | 寺子屋塾<br>井上淳之典 | 地域通貨を手法とした地域デザイン 地域通貨ゲーム -<br>（写真 9） |
| 4 | 7/8（土） | こらぼ屋海山裕之 | 事例１：地域通貨による地域デザイン　J ファンド - |
| 5 | 7/22（土） | 高野雅夫 | 自然エネルギー開発による地域デザイン |
| 6 | 7/22（土） | 豊根村役場青山幸一 | 事例２：バイオマスエネルギーによる地域デザイン |
| 7 | 8/5（土） | NPO 法人 地球の未来<br>駒宮博男 | 事例３：教育からの地域デザイン |
| 8 | 8/5（土） | 駒宮博男 | 自分の地域をデザインするには |

（写真 9：春期地域デザインスクール第 3 講座）

＜2006 年秋期　地域デザインスクール＞4 日間 8 講座火曜日：19：00～21：00PM

| 開催日 | | 講師（ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ） | 講座タイトル |
|---|---|---|---|
| 1 | 10/3（火） | 駒宮博男 | 地域デザインってなに？ |
| 2 | 10/3(火) | パネル討論（萩原） | 「持続可能な地域デザイン」とは何か？ |
| 3 | 10/17(火) | 朝日大学教授吉田良生 | 人口が減るとどうなる？ |
| 4 | 10/17(火) | パネル討論（駒宮） | 人口減少にどう対応する？ |
| 5 | 10/31(火) | JTIC.SWISS<br>山田桂一郎 | 人が訪れ、人が住みたくなる魅力的な町とは？<br>（写真 10） |
| 6 | 10/31(火) | パネル討論（井上） | 昆布売ります病気も売りますあなたの町は何を<br>ウリますか？ |
| 7 | 11/14(火) | 高野雅夫 | 都市は生きのびることができるのか？ |
| 8 | 11/14(火) | パネル討論（萩原） | 都市の未来を考えよう |

（写真 10：秋期地域デザインスクール第 5 講座）

**２．財源・資源の開発事業**
持続可能な社会づくりを行う NPO、企業、行政、地域が不足している財源・資源を開発・提供する事業

## ２－１．ファンドレイジング事業（助成セミナー）

○目的

NPO の運営にとって活動の資金源の開発は重要である。NPO の活動について社会から資源・資金が提供される（ファンドレイジングされる）社会作りのために、地域におけるファンドレイズの素地作りを行う。

○実施内容

**＜１．環境市民活動助成セミナー＞**

11 月５日開催の『もっと地域に価値を創造する助成へ！』イベントの午後に、「財源・資源の開発事業」の活動の一環として助成金に関する環境市民活動助成セミナーを行った。地域の未来・志援センターとセブン-イレブンみどりの基金、環境省中部環境パートナーシップオフィスの NPO・企業・行政 3 者の共催で開催した(写真 11.12)。全国区及び東海三県にわたる助成機関に参加を呼びかけ、また来場者としても東海 3 県の NPO・行政・企業に参加を呼びかけることによって、開催当日だけでなく、開催に至る過程においても 3 県 3 セクターにわたって多くの新たなつながりが構築された。当日参加者数：62 名。

・参加助成機関

| | 企業・財団 | 行政 |
|---|---|---|
| 東海地区 | 東海労働金庫、<br>三重銀行グループ、<br>リコー中部㈱ | 岐阜 NPO センター、<br>名古屋都市センター、 |
| 全国区 | TOTO 水環境基金、<br>損保ジャパン環境財団、<br>セブン-イレブンみどりの基金 | |

（写真 11：11/5 午後 助成セミナー パネル討論）

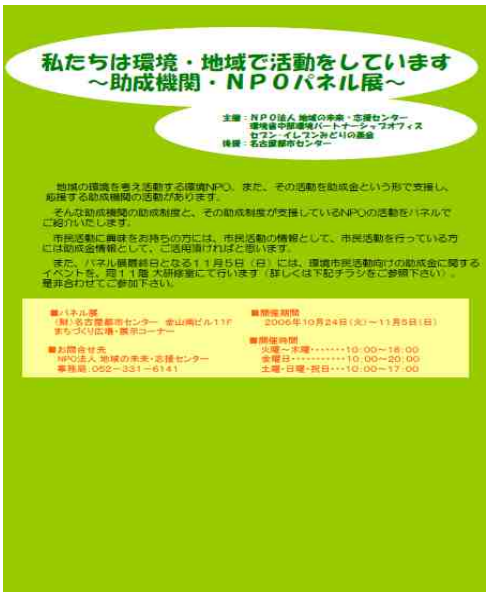
（写真 12：11/5 午後 助成セミナー助成機関
フリップディスカッション）

**＜2．助成機関の取組み・助成先団体活動紹介 パネル展＞**

11 月５日のイベント『もっと地域に価値を創造する助成へ！』に合わせて、イベントの会場となった財団法人名古屋都市センターとの共催にて同会場パネル展示コーナーにて 10 月 24 日から 11 月５日までの 2 週間助成機関とその活動・取組み・助成先団体を紹介するパネル展を行い、市民が集う同会場での開催で市民への NPO 活動や助成機関の活動に対して理解を深めてもらう機会とした（資料２．３、写真 12.13）。

・パネル展示出展助成機関

| | 企業・財団 | 行政 | NPO |
|---|---|---|---|
| 東海地区 | 東海労働金庫、三重銀行グループ、リコー中部㈱ | 岐阜 NPO センター、名古屋都市センター、 | |
| 全国区 | TOTO 水環境基金、損保ジャパン環境財団、セブン-イレブンみどりの基金、地球環境基金、日野自動車 | | |
| 助成機関以外 | | 環境省中部環境パートナーシップオフィス、 | 地域の未来・志援センター |




（↑資料２　パネル展案内看板）

（↑資料３　パネル展志援センターパネル）

（写真 13：10/24-11/5　パネル展示①）

（写真 14：10/24-11/5 パネル展示②）

## ２－２．人材育成事業（損保ジャパンＣＳＯラーニング制度）

環境分野で活躍する人材の育成支援、環境保全に関する活動・研究に対する支援を行うとともに、環境教育等の振興を通して地球環境保全に資することを目指して設立された財団が行っている「CSO ラーニング制度」のインターン生の受入れを行う。

○目的

地域における資金・資源の環境ＮＰＯ・活動へのファンドレイズに注目している。その一つとして大学生の環境 NPO へのインターン制度がある。実際に当団体で大学生のインターンを受け入れることで、NPO でインターン生を受け入れることの NPO 側の課題や、大学生側の課題を考える。

○実施内容

昨年に引き続き、6 月より損保ジャパンＣＳＯラーニング制度によってインターンの大学生の受入れを行った。

## ３．ネットワーク支援事業

持続可能な社会づくりを行う NPO、企業、行政、地域が抱えている様々な課題に対して、お互いに支援し合えるネットワークづくりを支援・促進する事業。

## ３－１．グリーン購入推進事業

○目的

グリーン購入促進活動を通して、東海 3 県 1 市のＮＰＯ，企業、行政のネットワーク作りを行う。

○実施内容

・東海三県一市グリーン購入キャンペーン【地球にやさしい買い物探検隊！】

| 項　目 | 内容・詳細 |
|---|---|
| 開催日 | 平成 19 年 1 月 14 日（日）AM10:00～PM4:00 |
| 会　場 | イオン千種ＳＣ（名古屋市）<br>(探検場所：マックスバリュ内、イオン施設内など) |
| イベント名 | 平成 19 年 1 月 14 日（日）AM10:00～PM4:00<br>「東海三県一市グリーン購入キャンペーン<br>【地球にやさしい買い物探検隊！】」 |
| スケジュール<br>（会当日） | 10：00 -10：15（15 分）【受付】<br>10：15 -10：45（30 分）【開会式】<br>10：45 -12：00（75 分）【スーパー探検開始】<br>12：00 -12：15（15 分）【移動・グループ写真】 |

| | |
|---|---|
| | 12：15-13：00（45分）【昼食】<br>13：00-14：30（90分）【エコマップ作成】<br>14：30-15：00（30分）【発表】<br>15：00-15：15（15分）【閉会式】 |
| 主　催 | 東海三県一市グリーン購入キャンペーン実行委員会<br>(事務局)名古屋市環境局環境都市推進課 |
| 協　賛 | イオン株式会社 |
| 協　力 | NPO法人　地域の未来・志援センター<br>グリーンコンシューマー名古屋 |
| 参加者 | 小学校4年生～中学校2年生までの親子（約50名）<br>（スタッフ：総数約20名）総勢：約70名 |

### ３－２．ネットワーク支援事業

１．環境デーなごや協働出展

NPO法人中部リサイクル運動市民の会、コミュニテイーユースバンク momo と共に環境デーなごやに協働出展し、団体の活動を PR した。

２．エコネット近畿開催イベント協力

地域の未来･志援センターと同じくセブン-イレブンみどりの基金の助成を受け立ち上がった近畿圏の中間支援組織「エコネット近畿」の設立記念講演会の開催準備・運営に協力を行った。

### ３－３．IIHOE／CANPAN 協力事業

＜１．『NPOの資金調達と情報開示のためのセミナー』＞

IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]及び日本財団の協力によって全国各地の NPO 支援センターで NPO の情報開示のためのセミナーを開催することとなり、地域の未来・志援センターは財源資源の開発事業として NPO 自身による情報開示により信頼性を高め資金調達へつながるためにこの中部地区での開催を担うこととなった。『NPO の資金調達と情報開示のためのセミナー～市民・資金提供側が NPO に求める情報とは？』と題し開催した。

| | | |
|---|---|---|
| テーマと行事名称 | 「NPOの資金調達と情報開示のためのセミナー<br>～市民・資金提供側がNPOに求める情報とは？～ 」 | |
| 開催日時 | 2007年2月3日（土曜）13：30～16：45 | |
| 会場 | ウィルあいち　特別会議室 | |
| 主催 | NPO法人 地域の未来・志援センター | |
| 共催 | ＩＩＨＯＥ [人と組織と地球のための国際研究所] | |
| 後援など | 協力：日本財団 ＣＡＮＰＡＮ | |
| 報告者・出演者 | テーマ（時間） | お名前（ご所属） |
| | (1) 基調発題<br>①「助成・資金調達と情報開示」<br>（１５分） | 川北秀人様<br>（IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所] 代表） |
| | ②「助成申請書及び報告書の設問に関する調査」報告<br>（３０分） | 赤澤清孝様<br>（IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]客員研究員） |
| | (2) 参加者よりの問題提起<br>（３０分） | ＜コーディネーター＞<br>川北秀人様（IIHOE） |
| | (3)CANPAN紹介<br>「日本財団が進める団体の情報開示とは？」<br>（２０分） | 荻上健太郎氏<br>（日本財団Canpanチーム） |

| | | |
|---|---|---|
| | (4)意見交換<br>「東海地域で NPO の情報開示を進めるために」<br>（６０分） | 川北秀人様（IIHOE）<br>萩原喜之（NPO 法人 地域の未来・志援センター 理事長） |
| 参加者数 | ２８人（出演者、主催センタースタッフ含み、会場内にいたすべての人数） | |
| 参加者内訳<br>（人） | ・ＮＰＯ（法人格の有無は問いません）・市民活動団体：（６）人<br>・企業：（３）人・ＮＰＯ支援センター、社会福祉協議会 等：（５）人<br>・助成機関：（０）人・行政：（０）人・研究者・学生：（３）人<br>・主催センター関係者（スタッフ等）：（１１）人 | |

（写真 16：NPO の信金調達と情報開示のためのセミナー 日本財団荻上氏発表）

＜２．『CSR 基礎講座』～地域とのコミュニケーションで進める深める CSR～＞

IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]と日本財団の協力によって、CSR 講座が全国各地で開催されることとなり、中部地区での開催を地域の未来・志援センターとサスティナブル経営研究会、環境省中部地方環境事務所、環境省中部環境パートナーシップ、社団法人地域問題研究所が共同で主催した。

| | | |
|---|---|---|
| テーマと行事名称 | CSR 基礎講座<br>～地域とのコミュニケーションで進める深める CSR～ | |
| 開催日時 | 2007 年 2 月 6 日（火曜）14：00～18：00 | |
| 会場 | ウィルあいち　会議室５ | |
| 主催 | 第１部　ＮＰＯ法人 地域の未来・志援センター<br>サスティナブル経営研究会<br>第２部　環境省中部地方環境事務所<br>環境省中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）<br>社団法人 地域問題研究所 | |
| 共催 | ＩＩＨＯＥ［人と組織と地球のための国際研究所］ | |
| 後援など | 協力：日本財団 ＣＡＮＰＡＮ | |
| 報告者・出演者 | テーマ（時間） | お名前（所属） |
| | （１）　基調発題<br>①「CSR の本質～持続可能な社会に向けて（ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑﾀｲﾄﾙとして）」<br>『地域で信頼される企業であり続けるために』<br>CSR への取り組みをどう育てるか<br>ｽﾃｰｸﾎﾙﾀﾞ 参画による CSR 経営 -（４０分） | 川北秀人様<br>（IIHOE［人と組織と地球のための国際研究所］代表） |

| | | |
|---|---|---|
| | ②『CSR 報告書にみる情報開示度の傾向とNPO の役割』（１０分） | 田村太郎様<br>（IIHOE 研究主幹・ダイバーシティ研究所 代表） |
| | CSR が日本を変える！～日本財団公益ｺﾐｭﾆﾃｨｻｲﾄ CANPANCSR ﾌﾟﾗｽのご紹介～（３０分） | 荻上健太郎様<br>（日本財団 Canpan チーム） |
| | （３）参加者よりの問題提起（２０分） | ＜コーディネーター＞<br>川北秀人様（IIHOE） |
| | （４）東海地域の CSR 活動調査中間報告<br>（CSR 活動の実態と先進事例）（２０分） | 岡田敏克様<br>（サスティナブル経営研究会） |
| | （５）意見交換・パネル討論<br>「CSR はチャンスか？リスクか？」<br>（６０分） | ＜コーディネーター＞<br>村田元夫様（サスティナブル経営研究会）<br>＜パネリスト＞<br>・加藤啓介様<br>（サスティナブル経営研究会　代表）<br>・山田厚志様（㈱山田組 代表取締役）<br>・松澤考宏様（㈱マツザワ瓦店 代表取締役）<br>・萩原喜之<br>（NPO 法人 地域の未来・志援センター理事長） |
| 参加者数 | ５１人　（出演者、主催センタースタッフ含み、会場内にいたすべての人数） | |
| 参加者内訳（人） | ・ＮＰＯ（法人格の有無は問わず）・市民活動団体：（４）人<br>・企業：（１３）人<br>・ＮＰＯ支援センター、社会福祉協議会 等：（１）人<br>・助成機関：（０）人・行政：（２）人<br>・研究者・学生：（５）人<br>・その他（財団法人・社団法人）：（４）人<br>・主催センター関係者（スタッフ等）：（２２）人 | |

（写真 15：CSR 基礎講座　IIHOE 研究主幹田村太郎氏発表）

## ４．情報提供事業

持続可能な社会づくりを行う NPO、企業、行政、地域の情報の収集と発信に関する事業

### ４－１．WEB 事業

○目的

地域を担う市民（NPO 等）のネットワーク化並びに市民が必要な情報提供を意識した情報の受発信を行う。

○実施内容

今年度は情報基盤整備として昨年、一昨年と作られてきたホームページのコンテンツの整理およびデータベース（DB）、GIS などに用いられている、URL のリンク修正、更新作業を行った。

今年度、情報基盤整備として目標としたことは、当団体で HP を設置して 2 年が経過し、HP の収録内容が設立当初の内容が主流であったため、対外的に団体の取り組みが分かるよう、見やすい HP を目指した。また通常 HP などに収録されている DATA はなかなか更新されることなく、その DATA の古さから逆に団体の信頼が弱まっていくことが危惧されるため、最低限やるべき作業範囲として URL のリンク修正、更新を重点的に行った。

### （イ） その他の事業（特定非営利活動に係らない事業）

なし